

量法が確立されるものと信ずる次第である。終りに本研究の発表を許可されたる日本製鋼所に敬意を表し種々御指導を賜つた室蘭製作所々長小林佐三郎博士に厚く感謝の意を捧げると共に、分光分析に就て熱心に協力せられたる研究部鈴木孝範氏に感謝する。

(昭和 26 年 2 月寄稿)

#### 参 考 文 献

- 1) J.T. Rozsa: Iron Age, 164, No 25, 73~5, (1949)
- 2) T.C. Tarrett: Foundry, 77, No. 4, 66, (1949)
- 3) F.E. Ludwig and G. R. Johnson: Ind. Eng. Chem. Anal. Ed., 14, p. 895, (1942)
- 4) W. Westwood and A. Mayes: Analyst, 73 p. 275, (1948)
- 5) H. B. Vincent and A. A. Sawyer: J. Applied Physics, 8, p. 163, (1937)
- 6) A.P. Gagnebin, K.D. Millis, and N.D. Pilling: Iron Age, No., 163, p. 70, (1949)
- 7) W.C. Plerce and N.H. Nachtried: Ind. Eng. Chem. Anal. Ed., 13, p. 779, (1941)
- 8) W. R. Kenedy: The Foundry, Oct., Vol. 77, No. 10, p. 80, (1949)
- 9) Donoho, C.K.: American Foundryman, Feb. (1649)
- 10) Churchill, J. R.: Ind. Eng. Chem. Anal. Ed. 16, p. 653, (1944)

### — 研究部會記事 —

**第 18 回製鋼部會:** 日時: 昭和 26 年 10 月 23~24 日. 場所: 富士製鐵 K. K. 廣畑製鐵所 (兵庫). 出席者: 委員長代理志賀芳雄君外委員, 同代理, 臨時出席者及幹事等 50 名. 提出資料: 鋼-220. 第 17 回製鋼部會議事録……鋼-246. カarbonメーターについて等 27 通, 議事概要: (1). 平爐天井煉瓦規格改正の件では各委員より要望のあつた R=500mm のものが採用されることに決定された. (2) トリベ煉瓦寸法規格制定の件については各社に於いてトリベの寸法區々なるため急速に決定しがたいので先づ標準取鋼の制定を今後の協議事項とすることにした. (3). 優良低炭素鋼の製造法に關する研究については之れに關する資料提出者小川 (釜石), 高田 (川鐵葺合), 土肥 (廣畑), 北島 (八幡) の各氏から夫々説明があつた. (4). 燃料の合理的使用法に關する研究については吉田 (鐵鋼連盟), 澤村 (神戸), 津田 (和歌山), 土肥 (廣畑), 下郷 (八幡) の各氏から夫々提出資料について説明があつた(5). パンケーキ法その他による鹽基度の測定については堀川 (日本鋼管), 菅澤 (新扶桑製鋼), 守川, (新扶桑鋼管), 高田 (川鐵葺合) の諸氏から提出資料により夫々説明があつた. (6). その他各委員の研究についての発表があつた. 尙新に議題としてスクラップ處理法を追加することとした.